

事業所名 グループホーム花の里・萌
(クリックすると事業者の情報にリンクします)

日付 平成20年12月23日

評価機関名 ㈱東京リーガルマインド
(クリックすると評価機関の情報にリンクします)

評価調査員
A:現職 介護支援専門員
資格・経験 介護福祉士、介護支援専門員
B:現職 理学療法士
資格・経験 障害児施設勤務(20年)、理学療法士、介護支援専門員、が'ドヘルバ'講師

自主評価結果を見る (事業者の自主評価結果にリンクします)

評価項目の内容を見る (評価項目にリンクします)

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)
(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

外部評価の結果

講評
全体を通して特に良いと思われる点など(記述)

- ・ホームの背面には、なだらかな山並みの種松山、周囲にはのどかな田園風景が広がっており、四季折々の移ろいを肌で感じられる環境の中で入居者は生活している。また、倉敷市街には車で数十分という距離にあり、利便性もある。
- ・庭には、交流のある障害者施設の方々から丹精込めて作った花々が植えられており、「花の里」という名の通りの様相であり、また、水遣りなど入居者の活動の場としても活用している。
- ・主要道から1本中に入っており、ホームの前の農道は交通量もほとんどなく、安全第一である日々の散歩に適している。また、近くにある、系列グループホームへの散歩や交流も安心して図れる。
- ・代表者は地元出身でもあり、地域との連携をととても大切に考えている。代表者自ら、積極的に地域行事に参加したり、ホーム主催の行事には地域住民も招く等、地域との良好な関係を築き、交流を深めている。
- ・入居者にメリハリのある生活を送ってもらうため、様々なイベントを企画しており、外出の機会も多い。また、ホーム全体の掃除が行き届いており、清潔感がある。

特に改善の余地があると思われる点(記述)
特に改善の余地があると思われる点はない。

今後も、職員のみならず笑顔で入居者の暮らしを支え、様々な活動を通して地域との連携を深めながら、地域に根ざしたホームとして邁進していかれることを期待する。

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か(記述)		
	<ul style="list-style-type: none"> ・『人としての尊厳を大切に、家庭的な雰囲気、入居者の個性生かし、日常生活の支援を行う』ことをめざしている。 ・入居者一人ひとりの意思を尊重し、入居者のしたいことや望んでいることが実現できるよう支援していきたいと考えている。また、皆で一線に取り組める楽しみ事も取り入れ、張り合いのある暮らしをめざしている。 ・入居前と変らぬ暮らしを継続できるよう、家庭にいる時と同じように役割をもち、持てる力を自然に発揮できるように支援していきたいと考えている。 		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か(記述)		
	<ul style="list-style-type: none"> ・昔懐かしい足踏みミシンを始め、入居者が慣れ親しんだ物をさりげなくホーム内に配置し、入居者が手に触れることができる生活空間を作っている。 ・管理者を始め職員は、入居者が我が家のようにゆったりと過ごせる雰囲気作りを常々意識している。職員は、いつも穏やかな態度で入居者と接しており、入居者一人ひとりの困っているところにさりげなく寄り添って声をかけ、不安なく過ごしてもらえるよう心がけている。 ・地域の一員としての入居者を支えていくうえで、代表者も率先して地域との交流を図っている。 ・入居者と家族の関係が途切れることがないよう、家族がいつでも会いに来やすい雰囲気作りを行っている。 		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のベースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人でできることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にされた整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物物の支援	○	
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か(記述)		
	<ul style="list-style-type: none"> ・フェイスシートに、一人ひとりのできることを明確に記述しており、それを元に職員が一人ひとりのできることに声をかけている。お盆から汁椀を受け取ってランチョンマットの上に乗せること、毎食後ランチョンマットをたたんで片付けること、台拭きで食卓を拭くこと、洗濯物をたたむこと、塗り絵・ちぎり絵が得意な人は作品を作って完成すること、編み物をする事等々、その人のできることに合わせて取り組めるように支援している。また、職員は、入居者一人ひとりが自分の持てる力を発揮できる場作りをいつも心がけている。 		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	災害対策	○	
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
34	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
35	運営推進会議を活かした取組	○	
36	地域との連携と交流促進	○	
37	ホーム機能の地域への還元	○	
記述項目	サービスの質の向上に向け日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か(記述)		
	<ul style="list-style-type: none"> ・些細なことでも「ヒヤリハット報告」にあげ、事故につながらないように取り組んでいる。 ・新人教育には、代表者も携わり、マナー研修や認知症介護のポイントを指導する等、サービスの質の向上に向けてのたゆまぬ努力が見られる。今まで実施してきた社内における研修内容も素晴らしい、今後も継続して行われることを期待する。 		